

平成27年（2015年度） 第2回 学校協議会【議事録】

平成27年11月24日

10:00～11:30

はじめに

校長・准校長紹介、あいさつ

協議会委員紹介（新しい委員の紹介）

① 会長挨拶

学校協議会は学校の応援団だと思っており、忌憚のないご意見を出していただきたい。

② 報告及び協議

<協議会意見書箱について>

・投書は無かった。

<授業アンケートについて>

[教頭より]

- ・回収率は資料に書いてあるとおり。
- ・特段に点数の低い授業・高い授業はなかった。
- ・資料の右側は自由記述の内容を載せている。
- ・授業アンケート2回目は、12月に実施する。

※●は協議会委員からの意見、提言等 Qは質問 Aは学校の回答

- 授業アンケートの回収率について、せっかくたくさん保護者の方が授業を見に来られているので、回収率100パーセントを目ざす働きかけを、学校側はしたほうが良いのではないか。

Q. アンケートを出してほしい旨を学校は保護者に働きかけているのか。

A. 実施の1ヶ月前に保護者にお知らせを配布して周知している。日常的に来校している保護者が多く、特にその週に授業参観に来ようという保護者が多くない。来年度以降は、授業参観月間にして参観できる期間を長くするなど、回収率を高める働きかけをしていきたい。

- 保護者の中には、いくつか授業を見学しても、全体で1枚しかアンケートを出せないと思っている方がおられる。また、保護者は自由記述を書きたいと思っている。自由記述のように思いが伝わるようなアンケートを、保護者は書きたいと思っている。

[学校長]

- ・授業アンケートは条例で決まっているものである。
- ・書いた保護者、書かれた教員の両方の個人情報として扱わなければならない。
- ・様式としては自由記述の欄を設けていないが、チームティーチングが基本である支援学校として、個人ではなくチームとしての印象を聴いている部分がある。
- ・今後、回収率を上げるよう努めていきたい。

<平成27年度学校経営計画進捗状況について>

[学校長より]

- ・9月末までの進捗状況の説明。
- ・重点目標等、経営計画についての説明。
- ・各項目について、概ね計画通りに進んでいると感じている。

Q. 感染症予防について書かれているが、肢体不自由のクラスでは嘔吐等の時の対応準備がされていると聞くが、他のクラスではどうか。

A. 全校的に対応の準備はしている。

Q. トイレ（小）の失敗時にモップで拭くだけで、教室に消毒液等がないと聞いたが。（改善されているかもしれないが。）

A. 消毒液等を口にする生徒に対する全校的配慮として職員会議等で周知しており、対応策として見えるところから消毒液は撤去している。必要な時はその都度、保健室などに取りに行っている。

Q. 聞いた話では、掃除用のモップで処理していたようである。モップを使い分ける、消毒するなどの対応が必要ではないか。

A. 今後、気をつけていきたい。

Q. 実習生等の受け入れについて、学校側として教育活動に支障が出る・負担感などについては、どういった状況か。

- A. ・実習は大きく3つある。（介護実習・教育実習・看護実習）
- ・昨今、各大学の教員養成の定員数が増えてきており、来年度については教育実習の受け入れは少し増やさざるを得ない状況である。
 - ・全てを受け入れていくわけにもいかないの、校内でも検討しているところ。

Q. アビリンピックへの参加について、書かれているが実績はどうなのか。

A. 今年度から職業教育の喫茶も本格実施されたばかりなので、実際のところ参加できていないが、アビリンピックについて研究しているところで、今後参加を目ざしていく。

Q. 校務再編を進めるとあるが、具体的にはどのようにしていくのか。

A. 業務のスリム化のために、分掌の数を減らしていきたい。今のところ、全ての業務を今一度ばらしてそれをある分掌から類型化していくという業務分担の再構築を行なっているところである。

- 今の時代、学校運営や教育活動には情報機器が必要不可欠である。教員のそういった技術を高めていく取り組みが必要ではないかと思う。学校としても教員の意識を高めていくことをしていった方がいいのではと思う。

[学校長]

- ・高等部の生徒に関しては、就学奨励費で情報機器の購入が可能になり、本校でも来年度は一人1台全員が持つことになる。
- ・現在で、校内に100台以上のiPadがある。

・タブレットの活用については、教員が知っておかなければならないことはあると思う。教員に対して、プログラムを組むなど、働きかけていけないといけない。

- 茨木市では小学校からパソコンを授業で取り入れたりしている。本校でも、授業等で活用が難しい生徒の場合でも、休み時間や遊びなどでも活用できるようにしてほしい。

[学校長]

- ・iPadについては、学校側で管理することになる。
- ・府が設置したネットワークについで使用していく。
- ・教員はもちろんだが、PTAなどで保護者にも利用について知ってもらうようにしていきたい。
- ・子どもたちがより良く活用できるように学校として考えていきたい。

<学校教育自己診断について>

[首席]

- ・学校教育自己診断実施要項も載せている。
- ・今後の予定として、12月に高等部生徒に実施、1月に分析結果を職員に報告、2月の学校協議会にて分析結果を報告する。
- ・本校から地域支援に出ている所にもアンケートをとることを今後検討していく。
- ・集計結果は載せているとおり。
- ・アンケートで明らかになった課題が教職員に浸透していないことがあるので、今後、この自己診断の活用について検討していく。
- ・教職員の意見の公募など参画意識を高めるようなことも考えている。

- 項目27番の「新たな教育課程の改善」について、肯定率が低い、あまり急いで進めすぎずに、先生方がついていけるようゆっくり進めていくほうがよいのではないかと。

[学校長]

- ・縦割りのクラス分けから学年制へと移行している。
- ・小学部に関しては順次移行している。中学部に関しては、教育課程など検討中。高等部については、生徒数も増えてきており、学年制をベースに、職業コース等も選択できる新教育課程を今年度からスタートしている。
- ・新しいことにチャレンジするという事で、時間をかけて議論する部分と進めながらおこなっていく部分がある。急ぎすぎたはいけないが、順次改善を進めていく。

- 回収率が学部ごとに違いがあり、バラつきがあるのはなぜか。

[首席]

- ・各学部で回収箱にて回収したが、提出について徹底されていなかったために回収率の低い学部があった。
- ・今後、年度末に向けて未提出の教職員に声をかけをし、回収率を100%に近づけたい。

- 自立活動の専門性についての項目の肯定率が上がっていることは良い。昨年比マイナス項目については、教員同士の話し合いの時間が減っているのではという印象をもった。

- 対象となる教員が毎年変わることもあるし、ここ数年で年齢構成もかなり変わってきているので、単純に数字だけでは比較できないが、どの課題に関しても、根の部分は新転任者も含めて現在いる教職員に伝えていってほしい。4月当初の研修などは大切で、校長の思いをしっかりと伝えていってほしい。前年比プラスの項目は増えているので良い。学校の努力があつたことだと思う。協議会は学校の応援団として意見を出していく。

③ 諸連絡

<事務局より>

- ・第3回については、来年2月に予定している。
- ・詳しい日時については、1月にアンケートをとらせていただき決定する。
- ・できるだけ全員の参加が可能な日程を組みたい。